

## 初舞台を踏んで……

田口 彩

11月6日、小金井祭にて若竹ミュージカルの初舞台を踏みました。私にとって初めてのミュージカルは歌って、踊って、演技して…と無我夢中になりながらも、なんとも楽しく充実した時間でした。終わってみるとあつという間に感じましたが、若竹ミュージカルの12年の軌跡をぎゅっつと縮めた1時間は笑いあり、涙あり、そして感動にあふれた舞台だったと思います。今回、アメリカのダンスを踊るにあたり実は緊張でいっぱいだった私ですが、舞台の真ん中に立ち音楽が流れ出した瞬間、自分自身が表現したいことが内側から湧き上がってきたような気がしました。これが舞台の魔力というものでしょうか、緊張という文字は消え舞台の上で思いっきり踊っている自分がいました。こんなふうに関心を表現できることは幸せなことであり、若竹ミュージカルの皆さんとの出会いは自分にとってとても大きいものであると感じました。広井先生が「若竹ミュージカルはファミリーです。」とおっしゃっていました。たくさんのお兄さんお姉さんお父さんお母さんに囲まれて、これからも素晴らしい時間を共有し、ミュージカルの楽しさ面白さを分かち合っていけることを嬉しく思います。まだまだ若竹ミュージカルの第一歩を踏み出したばかりの私ですがこれからもどうぞよろしくお願いいたします!!



## 長いセリフ ダンス 歌

## ソロに初挑戦 パート1



清野 友規

ぼくはコンサートで「もうすぐ17才」のはじめのところを一人でうたいました。マイクをもって歌いました。気持ちよかったです。お客さんがたくさんきてくれて、うれしかったです。

戸田 尚幸

ソロに決まった時はとてもうれしくてドキドキするほどわくわくしてすこしきんちょうしました。山本先生から「あまいささやき・・・」のところを注意されてやりなおしました。藤江先輩から「大切な事に気がついていない」と言われて考えました。家ではピアノの音に正しく合わせるように。それから顔を上げて歌うように母にうさぐいわれました。母と顔を見つめ合いながら歌っていると母の変な顔を見て笑いました。

本番の時は真剣に歌ったら、いつの間にか音程が合いました。広井先生の指揮をみてかんどうしました。打ち上げで、広井先生に「君、あっていたじゃない!」と言っただきうれしくて、もっとがんばりたいと思いました。



盛生 正子

おねえさんのピアノに合わせてれんしゅうしました。「せけんしらず・・・」の歌詞が歌い出しにくかったです。本番はちゃんとうたえるとしんじていました。よくできてよかったです。

河西 美保子

音ていが合うように家でれんしゅうしました。お母さんとピアノに合わせてうたいました。「おくびょうなの・・・」のところ、むずかしくて、なんどもなんどもれんしゅうしました。大きな声で上手にできてうれしかったです。



坂井 智明

私はトニーの役をして、近藤由里さんと見つめ合うシーンがうまく出来ました。歌やセリフやダンスがうまくできました。指揮者の先生の前で「トゥナイト」をうたい、とてもかんどうしました。ウエストサイドのリフやサウンドオブミュージックのマックスおじさん、屋根の上のヴァイオリン弾きのロシアの巡查部長、みんな思い出です。ミュージカルを続けていてよかったです。また、続けたいです。

近藤 由里

わたしはとてもマリアのやくがやりたかったので、うれしかったです。さかいくんといっしょにできてよかったです。また、マリアをやりたいです。



伊藤 公一

ぼくは弥生さんとダンスがやれてうれしかったです。でもぼくはツーステップがなかなか出来なくて、母と廊下で一しけんめい汗をかいてやりました。出来るまでなんかいも、なんかいもやりました。寮では寮母さんといっしょにやりました。リハーサルの時は失敗したけれど、本番はきんちょうしたけれど、ツーステップが出来て良かった。歌とダンスとえんぎをこれからも楽しく勉強したいです。

